

6月新着図書



日野南コミュニティーハウス

おひとり2冊まで、2週間（新着本は1冊）借りられます。

俺たちの箱根駅伝 上

著者名：池井戸潤／著

池井戸潤の最新長編の舞台は、「東京箱根間往復大学駅伝競走」ー通称・箱根駅伝。若人たちの熱き戦いが、いま始まる！古豪・明誠学院大学陸上競技部。箱根駅伝で連覇したこともある名門の名も、今は昔。本選出場を2年連続で逃したチーム、そして卒業を控えた主将・青葉隼斗にとって、10月の予選会が箱根へのラストチャンスだ。故障を克服し、渾身の走りを見せる隼斗に襲い掛かるのは、「箱根の魔物」……。隼斗は、明誠学院大学は、箱根路を走ることが出来るのか？一方、「箱根駅伝」中継を担う大日テレビ・スポーツ局。プロデューサーの徳重は、編成局長の黒石から降ってきた難題に頭を抱えていた。「不可能」と言われた箱根中継を成功させた伝説の男から、現代にまで伝わるテレビマンたちの苦悩と奮闘を描く。

俺たちの箱根駅伝 下

著者名：池井戸潤／著

ついに迎えた1月2日、箱根駅伝本選。中継を担う大日テレビのスタッフは総勢千人。東京～箱根間2171kmを伝えるべく奔走する彼らの中枢にあって、プロデューサー・徳重はいままさに、選択を迫られていたー。テレビマンの矜持（きょうじ）を、「箱根」中継のスピリットを、徳重は守り切れるのか？一方、明誠学院大学陸上競技部の青葉隼斗。新監督の甲斐が掲げた「突拍子もない目標」の行方やいかに。そして、煌（きら）めくようなスター選手たちを前に、彼らが選んだ戦い方とは。全てを背負い、隼斗は走る。

板上に咲く MUNAKATA: Beyon

著者名：原田マハ／著



「ワあ、ゴッホになるッ！」1924年、画家への憧れを胸に裸一貫で青森から上京した棟方志功。しかし、絵を教えてくれる師も、画材を買うお金もない。その上、弱視のせいで遠近感をうまく表現できず、帝展に落ち続ける日々。そんな彼が辿り着いたのが木版画だった。「板画」が引き金となり、棟方は日本の、世界の版画界を劇的に変えていく。棟方と苦楽を共し、支えた妻・チャ。無尽の愛と激動の時代を描く、待望の書き下ろし。アート小説

クスノキの女神

著者名：東野圭吾

少女と少年には秘密があった??。不思議な力を持つクスノキと、その番人の元を訪れる人々が織りなす物語。累計100万部突破！待望のシリーズ第2弾！神社に詩集を置かせてくれと頼んできた女子高生の佑紀奈には、玲斗だけが知る重大な秘密があった。一方、認知症カフェで玲斗が出会った記憶障害のある少年・元哉は、佑紀奈の詩集を見てインスピレーションを感じる。玲斗が二人を出会わせたところ瞬く間に意気投合し、思いがけないプランが立ち上がる。

グリフィスの傷

著者名：千早茜／著

からだは傷みを忘れないーたとえ肌がなめらかさを取り戻そうとも。「傷」をめぐる10の物語を通して「癒える」とは何かを問いかける、切々とした疼きとふくよかな余韻に満ちた短編小説集。「みんな、皮膚の下に流れている赤を忘れて暮らしている」。ある日を境に、「私」は高校のクラスメイト全員から「存在しない者」とされてしまいー「竜舌蘭」「傷が、いつの日かよみがえってあなたを壊してしまわないよう、わたしはずっと祈り続けます」。公園で「わたし」が「あなた」を見守る理由はー「グリフィスの傷」「瞬きを、する。このまぶたに傷をつけてくれたひとのことをおもう」。「あたし」は「さやちゃん先生」をめぐって、渋谷の街を駆け抜けるー「まぶたの光」……。ほか、からだに刻まれた傷を精緻にとらえた短編10作を収録。

spring

著者名：恩田陸／著



彼は求める。舞台の神を。憎しみと錯覚するほどに。構想、執筆10年、待望のバレエ小説。



人間標本

著者名：湊かなえ／著

蝶の目に映る世界を欲した私は、ある日天啓を受ける。あの美しい少年たちは蝶なのだ。その輝きは標本になっても色あせることはない。五体目の標本が完成した時には大きな達成感を得たが、再び飢餓感が膨れ上がる。今こそ最高傑作を完成させるべきだ。果たしてそれは誰の標本か。一幼い時からその成長を目に焼き付けてきた息子の姿もまた、蝶として私の目に映ったのだった。イヤミスの女王、さらなる覚醒。デビュー15周年記念書き下ろし作品。

著者名：0

